

10. 呼吸器系の疾患 (インフルエンザ、鼻炎をふくむ)

文献

磯部由美子、干思、井上悦子. ランダム比較試験 (RCT) による鍼カゼ予防・治療効果 東洋療法学校協会雑誌 2000; 24: 94-7. 医中誌 Web ID: 2003049904

1. 目的

鍼による風邪の予防効果と感染後の治療効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

森ノ宮医療学園専門学校、大阪、日本

4. 参加者

2000年1月20日から2月19日までの風邪を引きやすい冬期に募集した健康成人学生および教職員24名

5. 介入

Arm 1: 鍼治療群 (11名)。両側喉頭隆起外方1.5寸から上の阿是穴に0.16×40mm 鍼で喉の奥方向への響きを目安として刺鍼15秒、週2回4週間 (1か月)。

Arm 2: コントロール群 (12名)。無処置。

割付け前に1名が脱落。

6. 主なアウトカム評価項目

風邪ダイアリーを毎日記録: 元気、普通、風邪気味、大カゼ (仕事や学校を休んだり寝込む)、風邪を引くまでの日数、風邪を引いた日数および、自記記録の風邪ダイアリー

7. 主な結果

2群の割り付けはほぼ均等であり、カゼを引くまでの日数は、2週間目までは Arm 1 が長かった。風邪を引いた回数は両群に差はなかった。風邪を引いた日数は中央値で Arm 1 が Arm 2 より2日間短かった。

8. 結論

鍼治療の介入により、風邪を引くまでの日数が延長し、カゼ罹患日数も短縮する。

9. 鍼灸学的言及

治療ポイントである「喉頭隆起外方1.5寸から上の阿是穴に喉の奥方向への響きを目安とする方法」は、経験的なポイントで、通常の経穴や奇穴でもない。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

風邪に対する鍼治療の予防効果に着目した興味深い研究である。報告者が述べるごとく、パイロット試験として実施されたものであり、対象症例数が少ないために統計的な解析がなされていない点が問題であろう。また、コントロール群に無処置群が置かれているが、やはり、何らかのシャム介入が望まれる。また、治療ポイントとしてきわめて特異的な部位が選ばれているのも特徴である。細い鍼灸鍼による手技で響きを得るという方法は、一般的なものではないが、日本の鍼の特徴的な方法論のひとつとしては興味深いものである。この研究をきっかけにして、サンプルサイズを設計した、より大規模な臨床試験が望まれる。

12. Abstractor

篠原昭二 2011.1.31.